

「平成30年度 福岡市基本計画に係る実施状況の報告(案)」についての総合計画審議会委員からのご意見に対する回答

ご意見等		対応の方向性
総論	各委員の意見を十分に反映させるには、審議会の開催頻度や審議時間が足りないのではないかと。	審議会の開催につきましては、平成25年度の審議会で頂いた、審議会のあり方に関するご意見などを踏まえ、開催頻度を隔年とし、特にご意見を頂きたい施策をお示しした上でご審議いただくこととしているものです。 なお、できるだけ幅広いご意見を頂けるよう、審議会の1カ月前に資料をお送りし、会議の中に限らず、ご意見を頂いているところです。
総論	定量的な指標と定性的な指標が、うまく連動していないのではないかと。	成果指標につきましては、評価の継続性や、審議会への諮問・答申を経て議会の議決を頂いたものであるという経緯も踏まえ、補完指標の追加により改善を図っているところですが、今後とも、指標のあり方について検討してまいります。
総論	全体的には満足という結果が出ているデータについて、本当に困った人をフォローできているのか疑問であるが、それをどのように指標等に反映していくのか。	
総論	補完指標については、個別に評価するだけでなく、他の指標と照らしてシビアに判断することが必要ではないかと。	指標につきましては、他の指標との関係性なども踏まえながら分析してまいります。
総論	アンケート等に基づく指標については、サンプル数を記載すべきではないかと。	成果指標等のグラフに、サンプル数を追記しました。
施策 1-1 ユニバーサルデザインの 理念によるまちづくり	指標②「ユニバーサルデザインの実現への評価」が向上していないが、抜本的な政策を考えなければならぬのではないかと。	ユニバーサルデザインの理念によるまちづくりにつきましては、事業を開始した平成23年度に、市長を本部長とするユニバーサル都市・福岡推進本部を設置して、全市的な推進体制のもと、ハードとソフトの両面から様々な取組みを着実に進めてきたところです。 一方、成果指標の達成状況を見ると、ご指摘のとおり、「ユニバーサルデザインの概念の理解度」や「ユニバーサルデザインの実現への評価」が向上しているとは言えないことから、さらなる普及啓発などに努めていく必要があると認識しております。 このため、現在の取組みに加え、市民がユニバーサルデザインの理念に基づき、主体的に行動するための仕組みづくりなども検討するなど、ユニバーサル都市・福岡の実現に向けた取組みを積極的に推進してまいります。
施策 1-1 ユニバーサルデザインの 理念によるまちづくり	市の取組みが市民に知られるよう発信していくとともに、障がい者など、ユニバーサルデザインを必要とする当事者を対象としたアンケート調査結果があれば、より実態がつかめるのではないかと。	ユニバーサルデザインの概念の理解度や取組みへの評価につきまして、ユニバーサルデザインを必要とする当事者に限定した調査は行っておりませんが、今後とも、指標のあり方について検討してまいります。

ご意見等	対応の方向性
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>児童虐待相談対応件数が非常に増えており、民法の改正も踏まえ、虐待防止の取組みをしっかりとってほしい。</p>
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>児童虐待防止対策の強化につきましては、相談件数の増加や相談内容の複雑化・深刻化に対応するため、国の方針に基づき、2022年度までに、段階的にこども総合相談センターの職員の増員を進めるとともに、各区の保健福祉センターを中心に子ども家庭総合支援拠点の体制を整えてまいります。</p> <p>また、地域の虐待防止のネットワークである要保護児童支援地域協議会を中心に連携を強化するとともに、民法改正を踏まえ、体罰は虐待にあたるということも広く市民に広報・啓発してまいります。</p>
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>在住外国人が増加しているが、外国人の出産が増えているというデータはあるか。</p>
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>福岡市における外国人の出生数は、平成29年までは増加傾向にありましたが、直近の平成30年は減少しております。</p>
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>今後、外国人の妊娠、出産にまつわる問題が出てくると思うが、どのように取り組んでいくのか。</p>
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>母子健康手帳をはじめ、妊娠届出や健診等の書類の多言語化、また、訪問指導や窓口対応時の通訳機能の活用など、今後とも、外国人への適切な相談対応や保健指導の充実に努めてまいります。</p>
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>「概ね順調」としているが、未入所児が多い。依然として保育所が足りず、保育士の処遇改善も不足しているのではないか。</p>
<p>施策 1-7 子どもが健やかに育ち、安心して生み育てられる社会づくり</p>	<p>保育の受け皿確保につきましては、保育所の新設や増改築のほか、小規模保育事業の認可など多様な手法により、これまでの8年間で約15,000人分の定員増を図っております。今後とも、増加する保育ニーズを的確に把握し、多様な手法による保育の受け皿確保に取り組んでまいります。</p> <p>また、保育士の処遇改善につきましては、これまで、公定価格の引き上げに加え、市独自に、保育士の勤続手当、初任給調整措置費の支給、家賃の一部助成、奨学金の返済支援などの取組みを実施してきており、今後とも、必要な取組みを進めてまいります。</p>
<p>施策 2-2 公民館などを活用した活動の場づくり</p>	<p>前年度に続いて「やや遅れている」という評価だが、市民の意見が活かされていないのではないか。</p>
<p>施策 2-2 公民館などを活用した活動の場づくり</p>	<p>公民館の延べ利用者数は増加傾向にあるものの、公民館の利用率は概ね横ばいで推移しており、これまで公民館を利用していない人の利用促進などが必要と考えております。現状では、団体利用が中心となっていることから、今後は、個人利用の拡大に向けた取組みを検討してまいります。</p>
<p>施策 2-2 公民館などを活用した活動の場づくり</p>	<p>個人利用の拡大を図るなど、幅広い年齢層に利用していただけるよう、工夫してまいります。</p>
<p>施策 2-2 公民館などを活用した活動の場づくり</p>	<p>子どもが公民館を使いやすいように、コミュニティ分野と子ども分野との連携ができると、「やや遅れている」状況も少し改善されるのではないか。</p>
<p>施策 2-2 公民館などを活用した活動の場づくり</p>	<p>こども分野も含め、様々な施策で公民館は利用されているところですが、今後とも各局と連携を図りながら、改善に向けて取り組んでまいります。</p>

ご意見等		対応の方向性
<p>施策 2-2 公民館などを活用した活動の場づくり</p>	<p>「やや遅れている」状況を解決するためには、人員、予算が不足している公民館支援事業を抜本的に改める必要があるのではないか。</p>	<p>限られた予算、人員の中で、工夫をしながらしっかりと取組みを進めてまいります。</p>
<p>施策 6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化</p>	<p>指標①「全国の中小企業従業者数に占める福岡市の割合」や指標②「市内中小企業従業者における正社員・正職員数と割合」は、中小企業の競争力の強化につながっていないのではないか。</p>	<p>指標自体が競争力の強化を示しているものではなく、様々な施策により競争力を強化した結果、全国の中小企業事業者数に占める本市の割合が増えるとともに、雇用が生まれ、正規の職員が増えていくと考え、指標として掲げているものです。 また、基本計画において、中小企業の競争力強化につきましては、「融資や経営相談、東京・大阪など大都市圏への販路開拓支援、アジアをはじめとする海外への展開支援などにより、地場中小企業の競争力・経営基盤の強化を図る」としています。このうち「アジアをはじめとする海外への展開支援」の取組みにつきましては、施策8-3にのみ掲載しておりましたが、施策6-3にも再掲しました。</p>
<p>施策 6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化</p>	<p>労働人口の減少による人手不足のため、中小企業は正社員にせざるを得ない環境があり、正社員の増加が競争力の強化につながるとは言えないのではないか。</p>	
<p>施策 6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化</p>	<p>雇用情勢も大きく変わっていく中で、競争力強化を図る指標が「正社員・正職員数の割合」でよいのか。</p>	
<p>施策 6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化</p>	<p>中小企業は人材の確保、育成が難しい状況にあるため、支援を強化してほしい。</p>	<p>中小企業の人材確保・育成につきましては、地場企業の採用力向上を図るセミナーや、学生と企業が相互理解を図る交流イベントを実施しているほか、福岡市の求人特集サイトにおいて、業界別など求人をスマートフォンで簡単に検索して応募などができるアプリを運用し、地場企業と求職者のマッチングを支援しております。</p>
<p>施策 6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化</p>	<p>人材確保については、新規採用だけでなく、在職者の定着も重要である。伝統産業だけでなく、一般の会社員等に対しても支援が必要ではないか。</p>	<p>地場中小企業の従業員の育成・定着を促すため、福岡商工会議所と共催で、新入社員研修やコミュニケーション研修など、従業員のスキルアップやモチベーション向上につながる研修を実施しております。</p>
<p>施策 6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化</p>	<p>事業承継についてどのような取組みを行っているのか。</p>	<p>事業承継につきましては、福岡市や福岡県等の行政機関と商工団体、金融機関等で組織された「福岡県事業承継支援ネットワーク」において、各支援機関が連携して支援を行っております。また、平成30年度は市として啓発セミナーを開催しました。 今後とも、中小企業基盤整備機構など各支援機関の支援施策について、パンフレット配布や市ホームページでの広報などを行い、連携した支援を実施してまいります。</p>
<p>施策 6-3 地域経済を支える地場中小企業などの競争力強化</p>	<p>事業承継には後継者の育成が重要であり、中小企業基盤整備機構が設置する中小企業大学の研修等を活用してほしい。</p>	

ご意見等		対応の方向性
<p>施策 8-8 アジアをはじめ世界の 人にも暮らしやすいま ちづくり</p>	<p>在住外国人が急増しているにも関わらず、生活ルール・マナー講座の実施件数は減少し、外国人の児童に対するサポートもほぼ横ばいである。指標①「在住外国人の住みやすさ評価」も前回を下回っており、「順調」とはいえないのではないか。</p>	<p>生活ルール・マナー講座につきましては、希望制を見直し、今後は申込みがなかった日本語学校等にも講座の受講を働きかけ、実施してまいります。</p> <p>日本語習得支援につきましては、ボランティアによる支援の促進のほか、市として11の日本語教室を開催するとともに、民間も含め、市内にある55の日本語教室の周知を行っており、さらに「やさしい日本語」ラジオ講座なども実施しております。今後もこれらの事業を継続するとともに、外国人の増加を踏まえ、日本語教室数の拡大に向けた支援を実施してまいります。</p> <p>また、小中学校においては、「子ども日本語サポートプロジェクト」として、外国籍の児童生徒など日本語の指導が必要な場合に、初期指導や授業に参加するための指導などを行う特別の教育課程によって日本語を学ぶ体制を整えており、指導教員の増員や拠点校の拡充により、日本語指導を希望するすべての児童生徒への指導を実施しているところです。</p> <p>施策の評価につきましては、上記を含めた様々な事業の進捗状況に加え、在住外国人の住みやすさ評価として、「住みやすい」に「どちらかといえば住みやすい」を加えた評価が96.5%となっていることなどを踏まえ、「順調」としております。</p>
<p>施策 8-8 アジアをはじめ世界の 人にも暮らしやすいま ちづくり</p>	<p>在住外国人が増えてきているのに対して、日本語習得支援は増えていないのではないか。</p>	<p>基本計画において、「アジアをはじめ世界の人も暮らしやすいまちづくり」など多文化共生の推進に係る施策を位置づけており、今後も本計画等に基づき、全庁的に外国人施策を推進してまいります。</p>
<p>施策 8-8 アジアをはじめ世界の 人にも暮らしやすいま ちづくり</p>	<p>多文化共生推進計画を策定し、全庁的に外国人の支援に取り組むべきではないか。</p>	<p>基本計画において、「アジアをはじめ世界の人も暮らしやすいまちづくり」など多文化共生の推進に係る施策を位置づけており、今後も本計画等に基づき、全庁的に外国人施策を推進してまいります。</p>
<p>総合戦略</p>	<p>基本目標Ⅱ(イ)の指標「地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合」の現状値は38.8%で、初期値37.3%から大して上昇しておらず、2019年度の目標値55%をかなり下回るが、Bという評価でよいのか。</p>	<p>総合戦略の指標の評価につきましては、基本計画における成果指標の評価と合わせ、基本計画策定時の初期値を基準とし、目標に向けて順調に進んでいるものをA、改善しているが目標達成ペースを下回っている、又は現状維持のものをB、初期値を下回っているものをCとしております。</p> <p>この基準に基づき、「地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合」につきましては、基本計画策定時の初期値が37.0%、現状値が38.8%と概ね現状維持であることからB、「企業における女性管理職比率」につきましては、同じく初期値が5.5%、現状値が10%と目標に向けて順調に進んでいることからA、「ユニバーサルデザインの取組みへの評価」につきましては、同じく初期値が30.5%、現状値が32.4%と概ね現状維持であることからBとしております。</p> <p>なお、指標の評価につきましては、単にAだから良い、Cだから悪いということではなく、指標全体の推移を踏まえながら、取組みを進めていくことが重要であると考えております。</p>
<p>総合戦略</p>	<p>基本目標Ⅱ(エ)の指標「企業における女性管理職比率」の2019年度の目標値12%は、G7で最下位の日本の現状値と同じであり、福岡市はこれを下回る10%である。</p> <p>2009年度の5.5%からは大きく飛躍したとも言えるが、Aという評価でよいのか。</p>	<p>総合戦略の指標の評価につきましては、基本計画における成果指標の評価と合わせ、基本計画策定時の初期値を基準とし、目標に向けて順調に進んでいるものをA、改善しているが目標達成ペースを下回っている、又は現状維持のものをB、初期値を下回っているものをCとしております。</p> <p>この基準に基づき、「地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合」につきましては、基本計画策定時の初期値が37.0%、現状値が38.8%と概ね現状維持であることからB、「企業における女性管理職比率」につきましては、同じく初期値が5.5%、現状値が10%と目標に向けて順調に進んでいることからA、「ユニバーサルデザインの取組みへの評価」につきましては、同じく初期値が30.5%、現状値が32.4%と概ね現状維持であることからBとしております。</p> <p>なお、指標の評価につきましては、単にAだから良い、Cだから悪いということではなく、指標全体の推移を踏まえながら、取組みを進めていくことが重要であると考えております。</p>
<p>総合戦略</p>	<p>基本目標Ⅲ(イ)「ユニバーサルデザインの取組みへの評価」の2019年度の目標値55%に対し、現状値は初期値39.3%を下回る32.4%だが、どのような考え方で評価をBとしたのか。</p>	<p>総合戦略の指標の評価につきましては、基本計画における成果指標の評価と合わせ、基本計画策定時の初期値を基準とし、目標に向けて順調に進んでいるものをA、改善しているが目標達成ペースを下回っている、又は現状維持のものをB、初期値を下回っているものをCとしております。</p> <p>この基準に基づき、「地域での支え合いにより、子育て家庭や高齢者が暮らしやすいまちだと感じる市民の割合」につきましては、基本計画策定時の初期値が37.0%、現状値が38.8%と概ね現状維持であることからB、「企業における女性管理職比率」につきましては、同じく初期値が5.5%、現状値が10%と目標に向けて順調に進んでいることからA、「ユニバーサルデザインの取組みへの評価」につきましては、同じく初期値が30.5%、現状値が32.4%と概ね現状維持であることからBとしております。</p> <p>なお、指標の評価につきましては、単にAだから良い、Cだから悪いということではなく、指標全体の推移を踏まえながら、取組みを進めていくことが重要であると考えております。</p>

ご意見等		対応の方向性
総合戦略	<p>今後、福岡市のグローバル化のためには、インバウンドだけでなく、アウトバウンドの推進が必要ではないか。</p>	<p>アジアのゲートウェイ都市を目指す福岡市にとって、観光・MICEやビジネスなどにおける交流人口の拡大は重要な施策であり、インバウンド、アウトバウンドの促進は福岡市の持続ある発展に欠かすことのできない重要な取組みと考えております。</p> <p>なお、福岡空港におけるアウトバウンド施策につきましては、平成30年の「アウトバウンド検討会」において広域からの集客や若者が多い市の特性を活かした方策がとりまとめられ、市関係局や空港関係者とともに取り組んでいるところです。</p>